

顔の見えるふれあい活動



【高坂学区】

■世帯数：1,749 世帯

■人 □：3,913 人

■面 積：0.349k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

自主防災事業の一環として「顔の見えるふれあい活動」を実施。戸建住宅の町内会、集合住宅の自治会ごとにリーダーを取り決め、活動の進捗状況を把握するよう会合を重ねている。

① 「防災ズキン」の配布

高齢者（初回は 80 歳以上、第 2 回は 75～79 歳）を対象に手作りの防災ズキンを配付することをきっかけにして、高齢者の居住状況や生活環境について情報を収集した。

② お助け活動

③ あたたかい声かけ活動

【住民への PR 方法】

口コミによる人間関係を築くことが大切

【アピールポイント】

「向こう三軒両隣」の精神による助け合いのふれあい活動に、「私にも何かお手伝いできる事はありませんか」と自ら積極的に参加申込があったこと。

2 きっかけ、背景

住民がお互いのことを知るには、実際に顔を合わせることが一番との考えから、学区の地域活動は、顔の見えるふれあい活動でなければと考えて活動している。相手を知ることによって新たな認識の軸が広がることを目的としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、老人
クラブ 計約 30 人

(2) 他団体との協力

天白区社会福祉協議会

(3) 運営協力

学区が「顔の見えるふれあい活動」
に取り組む意義を理解してもらえる
人材に協力を得た。

4 実施のスケジュール

H22 年 2月 「防災ズキン」の製作・配付を決定

11 月 「広報高坂」に配布の主旨を掲載
第1回目の配付開始(11 月末に完了)

H23 年 2月 第1回配付の活動報告会の実施
「お助け活動」の実施要領を決定

3月 「広報高坂」にて第2回配付の案内と
「お助け活動」の主旨を掲載
第2回目の配付実施(4月中旬に完了)

9月 お助け活動の経過報告と問題点の検証

H24 年 1月以降 「あたたかい声かけ活動」を推進

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 戸建住宅による町内会と集合住宅の自治会とに分けて取り組み、それぞれにリーダーを設けて活動としたことで住民の意識が高まるとともに住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- この事業の主旨をいかに理解して参加・協力を得られるかがポイントだった。

(3) 今後の課題・展望

- 活動の継続と担い手の世代交代が今後の課題。
- 活動の仲間づくりのためにリーダーの統括力と参加者とのより良い人間関係を保つ事が大切。

(4) メッセージ・アドバイス

- 福祉活動は学区によって異なると思うが、それぞれの状況に応じて対応する事が大切。

